

2011年度 な～に谷っ戸ん田 第25回目

畑でのサツマイモ収穫、コシヒカリ脱穀

日時 平成23年10月8日(土) 9:30～16:30頃

場所 堀の内の畑、谷っ戸ん田、和久さんの田んぼ

天気 晴れ(収穫日和)

参加者 石田、磯(PM)、加藤、霧生、久保、坂本、高田裕司、高橋、藤田(PM)、松本夫妻
丸山(11時まで) 園主(てつさん) 計13名

*途中、横浜市職員の森さん、福德さん。"GEN プランニング" 代表の奥村 玄(おくむらげん)さんが来ました。8日の午前中に JA 横浜中里支店で開催された青葉みらい農クラブ主催のシンポジウムで一緒だったとのこと。

田んぼの様子：水曜日の雨により、昨日の午前の状況では脱穀ができないということでした。しかし、昨日からの秋晴れにより、稲はいい感じで乾燥していました。朝、集合したメンバーの中には、本日から、脱穀と稲刈りができるのではという意見あり。しかし、園主と田んぼ班リーダーの磯さんの話し合いを尊重し、本日は他の作業をすることに決める。また、まだ稲刈りの済んでいないもち米は、3割程度倒れている状況にあった。

作業内容：まず、午前中は堀之内の畑でサツマイモの収穫をはじめとした作業を行うことに決める。

午前中：堀の内畑でのサツマイモ収穫

収穫物を入れる袋(米袋)を JA 田奈で購入し、堀之内の畑へ向かう。

持ち物：鎌、鍬、スコップ

【サツマイモ】

まず、サツマイモの半分を収穫することとした。まずは、つるを鎌で切り、切り離れたつるをのりめんに運ぶ。そして、黒マルチをはがす。借りている畑なので、黒マルチが畑に残らないように細心の注意を払う。マルチがはがれにくいところは、スコップを使ってマルチを取り出した。次に収穫だ。ここで面白い現象に気づく。サトイモ側の畝は大きなサツマイモがたくさんあるのだが、大豆側の畝は、葉はたくさん茂っていても、イモはほとんどできていないか、できていても小さいもののみだった。補植した部分であり、「補植した時期が遅かったため、こうなったのではないか」という意見と、「隣が大豆だったので、それが作る窒素分が影響し、つるぼけしたのではないか」という意見があった。

残り半分のうち、つるぼけしていないほうを子ども達の収穫のために残すこととし、それ以外のサツマイモを収穫した。合計収穫量は 82.6 kg

本日の持ち帰りは以下のとおりでした。

松本夫妻 6 kg、霧生 2 kg、坂本 2 kg、藤田 1 kg、高橋 4 kg、加藤 2 kg、久保 2 kg

残りのサツマイモは、てつさん小屋に一時的に置かせてもらっている。

【その他】ジャガイモの葉が出ていないところに高田家提供のアンデスレッド（16個）を植える。また、大根の間引き（2～3本へ）も行った。

昼休み

谷っ戸ん田広場にて各自食事を摂る。森田さんからなすの提供（一人150円で各人10個以上）あり。

そして、トイレへ向かった久保さんとてつさんが偶然出会い、「今日脱穀やらないか」という話あり。来週はてつさんが用事があり、今日の午後なら大丈夫とのこと。

急きょリーダーの磯さんとも連絡をとり、脱穀をすることに変更

午後：コシヒカリの脱穀

使用した道具：脱穀機、鳥よけで張っている糸を巻くもの、米袋、稲ワラをしぼるひも

14：00頃から15：30頃

田んぼに天日干ししていたコシヒカリの脱穀をおこなう

まず、鳥よけ糸をはずし、脱穀開始。放出される稲ワラは、今回は14株（7株と7株で上下の向きを変える）をひもで縛り、所定の場所へ運ぶ。

途中休憩（10分程度）あり。

稲ワラはてつさんが持ってきた竹の上に並べ、ブルーシートで覆う。ブルーシートは飛ばないように石を重しにしたひもを取り付けた。

15：40～16：10頃

和久さんの田んぼで、天日干ししていた稲の脱穀

作業終了後、もみ（15袋）やサツマイモ、そして道具をてつさん小屋に返し、終了

終了後、加藤先生作の焼き芋をいただく。

夕方：竹林で茗荷の収穫

高橋、坂本、松本の3名で、竹林へ茗荷を取りに行く。小袋3袋程度収穫し、残っていた加藤、久保を含めた5名で山分けした。

次回は10月15日（土）脱穀（満月）、稲刈り（喜寿）、糰子

記録：高田裕司